

課題 8 . 愛知県予防接種センター

活動項目	活動項目別の実績(概要)
実施活動	1. 接種要注意者、海外渡航者等に対する予防接種の実施 予防接種実施件数 547件 契約市町村数 12市町 2. 保健医療相談及び情報提供 相談件数 472件 3. 予防接種研修会の開催 1回 4. 予防接種センター調査検討委員会の開催 調査検討委員会1回、研究部会2回 5. 調査研究 (1)「地域における麻疹ワクチン接種実態調査について」 (2)「相談内容からみた予防接種に関するニーズ」
教育・研修	予防接種研修会 平成14年9月28日(土) 講演「予防接種実践講座 麻疹ワクチン～基礎疾患を持つ児への対応」 講師：名鉄病院予防接種センター 部長 宮津光伸 参加者数51名(医療機関の医師・看護師等医療関係者、保健機関保健師等)
保健・医療相談	相談内容の概説、本年度における傾向、県民のニーズ等 1. 相談内容は、「接種時期・方法」に関する相談が最も多かった。 2. 相談者が本人・家族の場合は、麻疹・インフルエンザの予防接種でアレルギー疾患等基礎疾患をもつ児への対応、専門家からは三種混合等の接種スケジュールや接種期間超過に関係する相談が多かった。 3. 副反応に関する相談は比較的少なかった。
情報サービス	ホームページに掲載 予防接種センターのご案内 「愛知県内の小児の予防接種実施状況調査結果」
調査・研究	1. 「地域における麻疹ワクチン接種実態調査について」 県内6市町・保健所の協力を得て、1歳6か月児及び3歳児健診時に麻疹ワクチン接種に関する調査を行った。 調査実施市町：大府市、東浦町、豊橋市、豊田市、長久手町、津島市、名古屋港保健所 調査期間：平成14年10月～平成15年3月 中間報告 (予防接種センター調査検討委員会で報告) アンケート回収数(1歳6か月児健診)1,611件、(3歳児健診)1,606件 (1.6健診)回答数1,513件 基礎疾患あり243件 (3健診) 回答数1,606件 基礎疾患あり322件 麻疹ワクチン接種済み(1.6健診)全体82.9%、基礎疾患あり78.6% (3健診)全体93.0%、基礎疾患あり90.0%

<p>調 査 研 究</p>	<p>2. 「相談内容から見た予防接種に関するニーズ」</p> <p>平成 13 年 11 月から平成 14 年 12 月までの期間に、「予防接種相談として受けた 571 件を対象に、相談記録をもとにワクチンの種類及び基礎疾患の内容について分類した（相談 1 件につきワクチンの種類及び基礎疾患は複数あり）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談者を本人・家族と専門家等に分けると相談者が本人・家族の方が圧倒的に多く、相談の内容は「接種時期・方法」が半数を超えた。 ・このうち、基礎疾患との関係での相談が約 4 割を占めたが、専門家からの相談では、「接種スケジュール」「接種期間超過」に関する相談が多かった。 ・ワクチンの種類と基礎疾患による分析では、家族からの相談は麻疹・インフルエンザに関するアレルギー疾患等基礎疾患を持つ場合の対応、専門家からは三種混合・二種混合の接種方法に関する相談などが目立った。 ・副反応に関する相談は比較的少なかった。
<p>学 術 活 動</p>	<p>第 4 8 回東海公衆衛生学術大会</p> <p>日 時：平成 1 4 年 7 月 2 7 日（土）場所：三重大学医学部</p> <p>演 題：小児の予防接種要注意者への医療機関の対応状況 －医療機関アンケート調査に基づいて－</p> <p>発表者：保健室長 山崎嘉久</p>

この事業に関連した実績としての調査報告やパンフレット、インターネット情報

資料の名称	発行日等	資料番号
調査 「相談内容からみた予防接種に関するニーズ」	平成 15 年 3 月	資料 8 - 1
調査 「地域における麻疹ワクチン接種実態調査について」	(中間報告分)	

実施活動項目ごとの評価：子どもの虐待予防活動

<p>評価の方法・手段</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談内容の分析 ・ 接種要注意者等への予防接種実施件数と内容の調査 ・ 研修参加者へのアンケート集計 ・ 県下市町村との予防接種委託契約件数
<p>評価の概要</p>	<p>1. 有用性</p> <p>(1) 相談内容では「接種時期・方法」が47.2%と最も多く、次に「海外渡航」20.8%であった。「接種時期・方法」の中では「基礎疾患と予防接種」「接種スケジュール」が多く、相談者は家族がその多くを占めていた。このことは、契約市町村からの依頼で実施している要注意者への予防接種の実施や相談に対応していると思われた。また、「接種スケジュール」の相談が多いのは、市町村が当センターを予防接種センターとして活用している表れではないかと予想された。</p> <p>(2) 予防接種実施件数は547件であったが、その内訳、接種要注意者等への予防接種の実施とその他海外渡航等の予防接種実施件数が分類できないため、これによる評価は難しい。ただ、(1)の相談内容の分析では、家族からの相談で「基礎疾患と予防接種」が多かったこと、また、契約市町村が平成13年度末では3市町であったのが12市町に増え、当予防接種センターの存在が認識されつつあると思われた。</p> <p>2. 問題点</p> <p>相談内容の分析から、相談者は本人・家族が圧倒的に多く、海外渡航の相談を除けば市町村が実施している定期予防接種に関する相談である。このことから当予防接種センターの設置目的でもある相談体制の充実のため、市町村への情報提供をしていく必要がある。</p> <p>3. 事業継続に関する意見</p> <p>県の予防接種センターとしての位置付けであり、予防接種に関する相談のニーズもある。また、契約市町村も増え市町村からの期待にも応えられるようさらに充実していく。</p>

予防接種実施状況

	H14.4月	5月	6月	7月	8月	9月
三種混合	0	2	1	1	2	5
二種混合	3	1	0	2	2	1
破傷風	0	1	5	2	0	0
日本脳炎	0	1	2	3	4	1
ポリオ	0	1	2	4	4	2
麻疹	6	4	3	4	4	5
風疹	1	1	1	1	0	3
ムンプス	0	5	2	1	3	3
水痘	2	0	1	1	2	2
ツベルクリン	1	0	1	1	2	0
BCG	1	1	1	1	2	0
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0
B型肝炎	3	3	1	2	1	0
A型肝炎	0	1	3	2	0	1
ジフテリアトキソイド	0	0	0	0	0	0
狂犬病	0	0	2	0	0	0
肺炎球菌	0	0	2	0	0	0
計	17	21	27	25	26	23

	10月	11月	12月	H15.1月	H15.2月	H15.3月	計
三種混合	2	3	5	1	4	3	29
二種混合	2	0	1	0	0	5	17
破傷風	2	2	6	7	4	1	30
日本脳炎	2	0	1	4	1	6	25
ポリオ	9	1	3	0	2	5	33
麻疹	1	1	6	7	4	1	46
風疹	1	1	2	2	1	3	17
ムンプス	1	0	0	1	0	2	18
水痘	1	3	0	0	1	2	15
ツベルクリン	0	1	0	1	1	2	10
BCG	0	1	0	1	0	2	10
インフルエンザ	6	82	65	15	0	0	168
B型肝炎	1	3	9	9	5	5	42
A型肝炎	4	5	1	8	13	15	53
ジフテリアトキソイド	0	0	0	0	0	0	0
狂犬病	0	2	4	6	7	11	32
肺炎球菌	0	0	0	0	0	0	2
計	32	105	103	62	43	63	547

研修会実績と評価(1) 予防接種研修会

実施日時	平成14年9月28日(土)午後2時から4時まで	
講演会	講師	名鉄病院予防接種センター 部長 宮津光伸
	講演主題	予防接種実践講座 麻疹ワクチン～基礎疾患を持つ児への対応
	参加者数	51名 (職種)医療機関：医師・看護師・薬剤師・事務職 保健機関：保健師、大学医学部学生(看護師) 県及び名古屋市予防接種関係主管課
	講演内容の要旨	
<p>1 麻疹の流行状況 1981年麻疹ワクチン定期化、1989年MMR 麻疹の大きな流行がなくなった。</p> <p>2 各年齢別麻疹発生状況(愛知県) 2000年から流行状況が変わってきている。年長児、成人20歳代が増加。</p> <p>3 麻疹ワクチンの接種率(津島市) 今年の小学校1年生、1歳半までに90%以上が接種している。県平均は80%位。1歳になったらすぐに接種するように指導。</p> <p>4 乳児の麻疹抗体価 乳児には9ヶ月以降ワクチン接種してもよいとされている、但し、任意。</p> <p>5 麻疹ワクチンの副反応 接種後1日目で腫れ、1週間後発熱、10日目位で発疹。ところが、1999年、2000年では1日目の腫れがなくなってきた。また、1週間後の発熱出現も、1～2日遅れてきている。'98年からメーカーがゼラチンを抜いたため。</p> <p>6 熱性けいれんをもつ小児と麻疹ワクチン ・「熱性けいれんをもつ小児への予防接種基準」案(厚生労働省研究班)けいれん発作から3か月あければ接種可能。主治医の判断で期間の変更は可能。 ・発熱の予測される予防接種での対応～発熱の出現しやすい時期に発熱を認めたらジアゼパム坐薬を予防的に投与する。37.5を越す発熱時。</p> <p>7 生ワクチン接種時のアレルギー対策 卵アレルギーへの対応が必要。皮内テストをする。</p> <p>8 抗体検査法について EIAかNT、ワクチン接種後は、2ヵ月後(6～8週間)に抗体検査をする。</p> <p>9 ワクチンの保存管理 輸送時間や、温度管理が力価に影響する。</p>		

主な質問と回答

Q1：免疫不全症の子のワクチン接種について、悪性腫瘍や化学療法を受けている等免疫不全の人には、できるだけ早く麻疹ワクチンを接種したい。ワクチンによる感染がおこることを考えるとどういうタイミングでやった方がいいのか。

A1：どこまで安全かはまだわかってない。三重の神谷先生が指標を作っている。まずは、不活化からやって、麻疹は少し後でやる。もし、感染したらグロブリンで対応する。

Q2：抗体検査、HIとEIA どういうふうに評価するのか。

A2：HIは 倍、EIAは4.0以上あれば満足、ムンプスの場合は3.5～4以上。ただエライザは高くてもなかなかお金を取ってまでできない。EIAはあくまで定性反応、うまく使えば定量にも使える。キットはいろいろ出ている。日本では二つ。どこをカットオフとするか、6週後3.5以上あれば、経験上予防できる。

Q3：インフルの回数について、13歳以下は2回とあるが、30歳以下は2回やったほうがいいのか？昨年接種していれば1回でいい？

A3：インフルの回数は、その先生の考え方。13歳以下は2回、40歳以上は1回。30歳以下は2回うてたらうつ。去年2回うっているとか、インフルにかかった人1回で。厳密には、1回うって、HIを調べる。40倍以上なら1回でよい。20倍以上なら2回。

初めて打つ人の場合は30代40代でも2回うったほうがいい。

うつ時期は、1回なら12月から、2回なら1回目を10月終わりから。あまり早く打たないほうがいい(これは私の意見)。

Q4：風疹ワクチンは接種したら2ヶ月避妊するとあるが、ムンプスや水痘は？

A4：確認されていない。うってしまった後で妊娠がわかっても大丈夫。妊娠していないことだけ確認する。

Q5：夏カゼの後のポリオの接種は、どれだけあければいいのか、エンテロウイルスだが。

A5：4週くらいあける、厳密には何もなし。

Q6：ツ反陽性でXP異常なし20mmの場合は麻疹ワクチンはうってもいい？

A6：15mm以上はまず、予防投与すべきだと思う。

Q7：DTうけずに成人になった人はどうしたらいいか。

A7：破傷風単独でうってもいい。私の場合はDT0.5でうつ。ジフの反応はない。破傷風は腫れ易い。DTでも破傷風の含有量同じ。DPTは破傷風含有量が少ない。

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート評価

出席者 51人 アンケート回収数：41枚（回収率80.4%）

研修会名	予防接種研修会							
研修者の職種	医療機関：医師28人、看護師12人、薬剤師1人、事務職1人 保健機関：保健師1人、看護師5人 県及び名古屋市予防接種関係主管課2人、大学医学生（看護師）1人							
研修者の年齢分布	20歳代：1人、30歳代：10人、40歳代：11人、50歳代：10人 60歳代：2人、不明7人 計51人							
研修者の性別	男性：24人 女性：27人							
アンケート質問項目		1	2	3	4	5	わ る い 不 明	
	・講義の内容はよく理解できましたか？ 1よく理解した 2理解した 3ほぼ理解した 4あまり理解できなかった 5理解できなかった	25 (61.0%)	13 (31.7)	3 (7.3)				
	・基礎疾患をもつ児への対応がよく理解できましたか？ 1よく理解した 2理解した 3ほぼ理解した 4あまり理解できなかった 5理解できなかった	19 (46.4)	14 (34.1)	8 (19.5)				
	・麻疹ワクチンの有効性について理解できましたか？ 1よく理解した 2理解した 3ほぼ理解した 4あまり理解できなかった 5理解できなかった	23 (56.1)	13 (31.7)	4 (9.8)				1 (2.4)
	・視聴覚教材の使用は、講義内容の理解に役立ちましたか？	18 (43.9)	16 (39.0)	4 (9.8)				3 (7.3)
<p>その他感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 再度、予防接種について確認できた。 ・ たくさんのデータを提示していただき興味を持って聞くことができた。 ・ 接種率を上げればよいということだけでなく、その効果判定と維持が大切で、今後の動き（2回接種法に移行していく）に注目していきたい。 ・ 予防接種についての研修会を毎年実施してほしい。 ・ 医療機関の先生方の生の声が聞けてよかった。 <p>* 開催日の希望： 土曜日の午後7時8分 1% 平日の午後1時9分 5%</p>								

予防接種相談内容

(相談分類相談者別)

平成 14 年 4 月 ~ 平成 15 年 3 月

中分類	小分類	本人・家族	専門家等	その他・不明	計	割合
接種時期 ・方法	基礎疾患と予防接種	70	2	0	72	47.2%
	既往症と予防接種	10	2	0	12	
	疾患罹患と予防接種	2	0	0	2	
	妊娠と予防接種	1	0	1	2	
	接種スケジュール	50	9	4	63	
	接種期間超過	18	5	1	24	
	実施医療機関	8	0	0	8	
	その他	21	10	9	40	
	中計	180	28	15	223	
副反応	ポリオ	4	0	0	4	4.0%
	三種混合 (DPT)	2	1	0	3	
	風疹	2	0	0	2	
	麻疹	4	0	0	4	
	インフルエンザ	4	1	0	5	
	その他	1	0	0	1	
	中計	17	2	0	19	
効果	ツ反・BCG	1	0	0	1	4.0%
	ポリオ	5	2	0	7	
	三種混合 (DPT)	2	4	0	6	
	二種混合	0	1	0	1	
	風疹	1	0	0	1	
	麻疹	1	1	0	2	
	B型肝炎	1	0	0	1	
	中計	11	8	0	19	
海外渡航	必要な予防接種・接種計画	71	5	7	83	20.8%
	海外の予防接種制度	4	0	0	4	
	保健医療事情	1	0	0	1	
	予防接種実施機関	2	0	0	2	
	その他	7	1	0	8	
	中計	85	6	7	98	
その他	その他	87	14	12	113	23.9%
	中計	87	14	12	113	
計		380	58	34	472	100.0%
		80.5%	12.3%	7.2%	100.0%	

予防接種センター調査検討委員会

実施日時	平成15年3月10日(月)午後3時から4時30分まで
出席者	愛知県健康福祉部健康対策課主幹 岩田徹也、愛知県厚生農業協同組合連合会昭和病院副院長 尾崎隆男、愛知県医師会理事 谷口正明、名古屋大学医学部教授 森島恒雄、あいち小児保健医療総合センター長 長嶋正實 計5名 (欠席：名古屋市健康増進課長 梅村三郎、名古屋市立大学医学部教授 戸苅創、名鉄病院予防接種センター部長 宮津光伸)
議題	1 あいち小児保健医療総合センター予防接種センター平成14年度事業実績について 2 調査研究について (1) 地域における麻疹ワクチン接種実態調査について (2) 相談内容からみた予防接種に関するニーズ 3 予防接種センター事業について意見交換
討議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域における麻疹ワクチン接種実態調査」については、対象市町が限られているなどのバイアスはあるが、まとめ方を検討した上で、発表する意味がある(県民に伝えるように)。 ・ 予防接種の広域化について、愛知県と県医師会で取り組み、検討中である。しかし、県内全域で一気にやるのは難しい。広域化のメリット・デメリットを考えて進めていく。 ・ 広域化については、施策として「こうだ」と決めてやらないとできない。 ・ 広域化に関する事で、当センターで何ができるのか、調査検討委員会研究部会での意見を聞いてすすめていく。

予防接種センター調査検討委員会研究部会

〔第1回〕

実施日時	平成14年5月30日(木)午後6時30分から8時30分まで
出席者	医療法人ネオキッズニコニコこどもクリニック院長荻野高敏、医療法人佐々木こどもクリニック院長佐々木邦明、名古屋掖済会病院小児科部長西川和夫、医療法人花田こどもクリニック院長花田直樹、愛知医科大学小児科講師浜口典子、名鉄病院予防接種センター部長宮津光伸 あいち小児保健医療総合センター保健室長山崎嘉久 計7名(欠席:かわきた小児科院長川北章、片山こどもクリニック院長片山道弘)
議題	「調査検討委員会研究部会の研究課題について」
討議内容	今年度、研究部会で行う研究課題について意見交換をした。 <ul style="list-style-type: none"> 麻疹について、1歳6か月児及び3歳児健診時に調査する。 予防接種実施数の把握、実施しなかった理由等 調査と同時に未接種者への啓蒙も行う。その時に使用するパンフレットを考える。

〔第2回〕

実施日時	平成15年2月19日(水)午後6時30分から8時30分まで
出席者	医療法人ネオキッズニコニコこどもクリニック院長荻野高敏、医療法人かわきた小児科院長川北章、医療法人佐々木こどもクリニック院長佐々木邦明、名古屋掖済会病院小児科部長西川和夫、医療法人花田こどもクリニック院長花田直樹、愛知医科大学小児科講師浜口典子、名鉄病院予防接種センター部長宮津光伸、あいち小児保健医療総合センター保健室長山崎嘉久 計8名 (欠席:医療法人総彩会片山こどもクリニック院長 片山道弘)
議題	「地域における麻疹ワクチン接種実態調査について」
討議内容	調査の中間報告を行い、今後に向けて意見交換をした。 <ul style="list-style-type: none"> 調査実施市町のアンケート回収方法が統一されていないので、市町別の結果は出しにくい。 麻疹ワクチン接種率が予想以上に高い。 接種年齢が1歳6か月までの率が基礎疾患のあるほうがやや低い。 1歳6か月児健診受診者の麻疹ワクチン接種勧奨の対象年齢は、 3歳児健診受診者のときより勧奨の対象年齢が下がっているのではないか? 行政へのフィードバックをする必要がある。有効的な表現方法～累積の立ち上がりのグラフ～をするとよい。